

Contents

表

- ・ 病院長からのご挨拶
- ・ 患者支援センター長からのご挨拶
- ・ 医学部附属杉並病院開院

裏

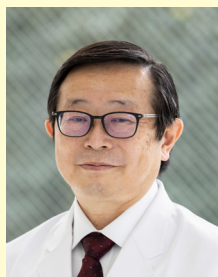
- ・ 診療科紹介
- ・ 病院年報を発行
- ・ 市民向け講演会
- ・ 就任教授紹介



編集：杏林大学医学部附属病院
〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2
Tel 0422-47-5511（代表）



■ 病院長からご挨拶



陽春の候、日頃より関係医療機関の皆様には大変お世話になりまして、心より感謝申し上げます。本年度は、初診紹介の予約について、FAX と電話に加えてオンラインでも予約できるよう受付システムを準備している状況です。また、患者サービスとして院内の Wi-Fi 整備も昨年完了しました。いよいよ始まった医師の働き方改革ですが、大学病院の医師には教育・研究も含め多くの業務があります。予約や紹介状なしで患者さんが外来受診をされますと医師の負担が増えるだけでなく、待ち時間や検査の重複などにもつながり、患者さんにとってもデメリットとなります。また、高度急性期機能を維持するため、逆紹介にも一層力を入れていきたいと思っ

ております。このような点については、関係医療機関の皆様だけでなく、患者さんやご家族のご理解も必要かと考えておりますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

さらに、少子高齢化社会が進むなかで、高度急性期病院と地域医療機関や福祉関係機関などとのより密な連携、顔の見える関係が重要となってきております。地域の皆さんのため、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

病院長 近藤 晴彦

■ 患者支援センター長からご挨拶



平素より当院と医療連携を行っていただきありがとうございます。患者支援センターは地域の医療機関と繋がる形で患者さんの外来受診、入院、退院後の医療・療養環境の調整、その他諸々の支援を行っております。

2023 年 1 月より従来の FAX 予約に加えて、患者さん自身での電話予約ができるようになりました。これに伴い FAX 予約が全体の 40% 程度から 20% 程度にまで減少し、電話予約が全体の 30% 程度を占めるようになりました。先生方のご理解と協力に感謝申し上げます。今年度は登録医の先生方からの新しい予約システムの構築を進めております。整いましたらホームペー

ジ等でご案内いたしますので、お待ちください。また、毎年開催している杏林大学医学部附属病院医療連携フォーラムについては、今年は複数の診療科による講演を同時開催する予定ですので、こちらもご期待ください。懇親会も従来同様開催いたします。本年も先生方と連携しながら、患者さんに満足いただける医療を提供したいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

患者支援センター長 神崎 恒一

杏林大学医学部附属杉並病院 開院



病床数：340 床
診療科数：29 科、2 部門
杉並区和田 2-25-1
TEL:03-3383-1281
JR 阿佐ヶ谷駅バス約 15 分



2024 年 4 月 1 日に新しい付属病院として、杏林大学医学部附属杉並病院が杉並区に開院しました。本病院は、地域に密着した医療を提供すると共に、東京都指定二次救急医療機関として、24 時間 365 日、小児科をはじめ各科で救急診療に対応します。また、予防医学センター（人間ドック）では、質の高い医療システムを導入し、病気の発生を防ぐ予防医学に力を入れると共に、区の健診施設として区民の健康管理にも寄与します。

三鷹に所在する医学部附属病院と緊密な連携を取りながら、患者さんの受入れや紹介、研究および人材の育成などを行うことで、より一層地域の皆さまのお役に立てるよう努めていきます。

診療科紹介

感染症科

当科は感染症の診断・治療に苦慮する疾患を中心に診療しています。他の医療機関から当科へご紹介いただく症例は、1週間以上原因がわからずに発熱だけが続く場合やHIV検査陽性などが多いです。感染症科としての入院病床は有していないため、入院が必要で対象臓器が明確な場合は、該当する診療科にご相談ください。感染症科として対応が必要な場合は、その診療科と連携して診療を行います。なお、土曜日の外来は医師不在の可能性もあるため、患者さんの紹介時には事前にご相談いただけると幸いです。

また、院内感染対策や抗菌薬適正使用支援などの役割があるICT (Infection Control Team) とAST (Antimicrobial Stewardship Team) の業務を担っています。さらに、大学病院として地域の医療機関や行政機関等に感染対策を目的としたカンファレンスを行う機会が、COVID-19以降に多くなっております。令和6年度以降は、感染対策向上加算・外来感染対策向上加算のためのカンファレンス・訓練と並行し、医療措置協定に関連した研修・訓練の企画も予定しております。



診療科長・教授
感染制御部 部長
倉井 大輔
専門：呼吸器感染症



感染症科、感染制御部 一同

2022 年度 病院年報を発行

当院の医療の質・自己評価、各診療科の診療体制や先進医療への取り組み、診療実績などを紹介しています。本誌は医師会や地域の医療機関等へお届けしています。また、病院HPでもご覧いただけます。(2024年1月発行)



市民向け講演会

日時・会場	テーマ・講師
5月18日(土) 14時～16時 杏林大学病院 大学院講堂 定員：100人	杏林医学会 第10回市民公開フォーラム 【フレイルについて知ろう】 医学部整形外科 助教 稲田成作、 助教 稲永紗季、リハビリテーション医学 教授 山田 深
6月21日(金) 15時～16時30分 三鷹ネットワーク大学 定員：50人	杏林大学 2024 年度公開講演会 【難聴と認知症】 医学部耳鼻咽喉科学 准教授 増田正次

※事前申込み制、参加費無料、詳細は病院・大学HPを参照

2024 年 4 月就任教授の紹介



呼吸器内科

さらや たけし
皿谷 健

順天堂大学医学部卒業 博士(医学)
東京都立広尾病院、都立駒込病院を経て、
2003年杏林大学医学部第一内科学教室
(現 呼吸器内科学) 着任

呼吸器内科では発展めざましい肺癌治療、稀少疾患を含むびまん性肺疾患の診断と治療、呼吸器感染症に対し幅広い医療を提供しています。呼吸器疾患を常にGeneral Medicineの立ち位置で再考しながら、沢山の患者さんから杏林に来て良かったと思われるように、信頼できる同僚達と共に努力していく所存です。どうぞよろしくお願い致します。



予防医学センター

とくなが けんご
徳永 健吾

杏林大学医学部卒業
同大学大学院医学研究科修了 博士(医学)
杏林大学医学部附属病院、東京都老人医療センターなどを経て、1997年杏林大学医学部第三内科学教室(現 消化器内科学) 着任

予防医学、消化器内科を専門として「胃がん撲滅」を目的に診療を行っています。「病気になるように予防する」「早期発見する」予防医学の重要性を多摩地区から全国へと広めていくことに取り組んで参ります。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



消化器内科

まつうら みのる
松浦 稔

神戸大学医学部 卒業
京都大学大学院医学研究科修了 博士(医学)
京都大学医学部附属病院消化器内科を経て、
2019年 杏林大学医学部消化器内科学教室 着任

当院は2019年に炎症性腸疾患包括医療センターを設立し、西東京地区における中核施設としての役割を担っています。私のサブスペシャリティである炎症性腸疾患と小腸内視鏡の経験を生かして患者さんの多彩なニーズに真摯に耳を傾け、最善の医療を提供するとともに、後進の育成にも尽力して参ります。今後とも御指導のほどよろしくお願い致します。